

科目ナンバリングコード	Mfm1100201	授業科目名	マンガ概論 2		
担当教員名	姜 竣、マンガ学部開講責任者				
履修可能開始学年	カリキュラムにより異なります。	単位数	1.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2025年度	開講学期	2025年度2Q	開講曜日・講時	金曜7限
主要授業科目	○	クォーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	マンガ学部基盤科目(必修)	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態	遠隔授業：オンデマンド型(配当されている時間割の時間帯以外にも受講が可能)		
相関するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
相関するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
相関の有無		●			●

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html	ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html
---------------------	---	--------------------------	---

サブタイトル	現代日本マンガのトポス（場所・空間性）とストーリーテリング
授業の目的・到達目標	(1)マンガやアニメーションにおける表現や生産の構造について学ぶことで、新たな表現の可能性を探求することができる。 (2)マンガやアニメーションがもつ社会とのつながりやコンテンツの領域に占める位置を理解することで、社会的なニーズに応え、課題解決に取り組むことができる。
授業の概要	この講義は、現代日本の重要なマンガ家とその作品の特性について学術的に考察することで、マンガに対する見聞と視野を広げることが目的である。重要なマンガ家とは異彩を放った作家のことである。日本のマンガは、表現として産業として文化として目覚ましい発達を遂げ、世界の類似する領域のなかで独自の地位を築いてきている。主に戦後から現代に至るまでの日本のマンガ史を振り返りながら、ユニークな作家とその作品を取り上げて、歴史、文化、社会、芸術などの幅広い観点から、それらの世界観やテーマや表現方法などについて学ぶ。それによって、日本マンガの表現として産業として文化としての特異性を知り、日本マンガの多様な展開と特異性を概観する。まず、終戦後の1950～60年代から1980年代まで、戦後日本の「ストーリーマンガ」を築き、マンガ史に多大な影響を与えた作家とその作品を踏まえた上で、私のマンガ読者としての経験と、文化人類学・民俗学・表象文化論を専門とする研究者の目線で、ユニークな作家や出色の作品、代表的な少女マンガ家などを取り上げる。
実務経験／実践的教育	〇〇としての実務経験を有する教員がその経験を活かして担当する授業科目です。【実務経験／実践的教育】
授業計画	第1～2週：前史としての戦後日本マンガのトポス（場所）とストーリーテリング ・手塚治虫の物語技法 ・水木しげるにおける妖怪の存在と造形 ・大友克洋以前・大友克洋以後 第3週：実験的な「場」としての路上＝ストリート～とり・みき『トマソンの罠』～ 第4週：東京の真ん中に動物の森をつくり、公共空間に「場」を穿つ～毛利甚八・作+魚戸おさむ・画『ケントの方舟』～ 第5週：少女マンガが描く時空間、少女マンガ描かれた街～くらしもちふさこ『駅から5分』&『花に染む』～ 第6週：冷戦後の世界と日本のトポス～矢作俊彦・大友克洋『気分はもう戦争』 第7週：総括
授業外学習の指示（予習・復習・課題等）	

単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】クォーター科目：講義・演習 4.5時間、外国語・実習 2.5時間／セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍してください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。

セイカポータルの掲示登録、クロスプロファイル、授業で配布した資料や指示した参考文献を読むこと（10時間）、授業で指示したWEB上のデータベースや作品集の閲覧（6時間）、路上観察や資料調査（6時間）、コメントや報告や課題論文に向けたテーマの発想、資料調査、課題論文の執筆（10時間）

評価方法・評価基準
授業への参加の度合いおよび提出物（30%）と、期末の課題論文の成績（70%）で評価し、合計60点以上を合格とする。ただし、3分の2以上出席していない学生は履修放棄とみなし、成績評価をおこなわない。
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
第1回目の授業時に、成績評価方法および水準について説明するので、必ず出席＝視聴すること。なお、授業の趣旨は変わらないが、取りあげる内容と構成は変更もありうる。
購入必須テキスト
参考文献・作品等
石子順造『戦後マンガ史ノート』紀伊国屋書店、1994年 伊藤剛『テヅカ・イズ・デットーひらかれたマンガ表現論』NTT出版、2005年 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』ヤハカワ文庫、2010年
参考WEBサイト（サイト名・URL）